

柑 橘 の 中 間 台 木 に 関 す る 研 究

第1報 熊本県における中間台木の事例について

中 村 寅 吉*・平 田 勲*

NAKAMURA, T. and HIRATA, I. Inter-stocks of Citrus. (1)
An example of interstocks in Kumamoto Prefecture.

熊本県柑橘産地における温州不良系統や小蜜柑（紀州）ネーブルオレンジ、雑柑など経営上不利なもの接替を要するものは大略20%にも及んでいる。これらを中間台木として優秀系統に接替え能率を高める必要があるので既往の事例について調査研究し今後の接替更新に資するためこの成績を報告する。

この調査研究は農林省応用研究費の助成によつて行われ前任者長田一美、稲葉一男両氏に依るところが多く、調査項目方法については永沢企画官の御指導を仰いだここに謝意を表する。

調査の経過及び方法

昭和28、29年の2ケ年に主産地における事例調査を行い、30年はその中の主要中間台木（小蜜柑、温州、ネーブル）に早生温州、普通温州を接いだ場合の接木後の樹令による樹勢の変化を知るため1～10年、10～20年、20～30年各10本宛を代表樹として選び主として樹勢、収量、品質等について観察した。31年は更に精度を増す意味でその調査を繰返し表年の状態を観察した。又他方では雑柑その他の中間台木の調査で30年に漏れた事項について前者と同様の方法で調査した。高接による特定要素の欠乏症の発現状態については葉分析を加えて特定要素の吸収が高接によつて阻害されるかどうかを確かめる予定であつたが都合によつて観察のみとした。32年度において主要中間台木の果実の品質と要素欠乏を研究調査する予定である。

成績及び考察

主要中間台木について

A組合せ 枳殻+普通温州+早生温州

この事例341本中で接木後10、20、30年を経過したどの調査樹をみても樹勢は強く、果実の収量（15～20貫）も多く品質も良い。台木負は僅かに認められるものとなないものがある。苦土欠乏症も僅かに発現して

いるが大部分はないものが多かつた。果実の熟期はやや早目になるものと普通のもので後者が大部分であつた。（熊本県主産地における普通温州の熟期は11月下旬～12月中旬）高接位置や中間台木そのものの樹勢の強弱によつて高接後の樹勢や収量品質に多少の差はあるが総じて優良な組合せである。尚この組合せの穂木部品種は宮川早生が大部分を占めている。

B組合せ 枳殻+普通温州+普通温州

この事例39本は接替後10年以下のもので最近の事例である。樹勢強くA組合せより強勢で果実の品質、熟期も普通であるが果面が荒い傾向があるが、これは樹勢の強勢な若木のためであり、古いものではその傾向も少ない。収量は20～25貫程度はあつて台木負もなく接着部の癒合も至極良好である。

調査樹穂木部の系統は在来、杉山、石川、長橋であり、中間台木樹令は20年代で穂木部は10年以下であるが、長橋の矮性中間台の場合を除けばMgMnその他要素欠乏の発現も少なく優秀な組合せであり今後不良系統の接替更新に大いに利用できるものである。

C組合せ 枳殻+紀州+早生温州

この組合せは707本中調査樹の大部分が僅かに台負の程度で、癒合は良く、樹勢は強又は極強であつた。調査樹の大部分の穂木部は宮川早生で一部は井関早生を含んでいる。宮川早生の場合は普通の熟期で品質もよく、井関の場合は1例ではあるが熟期がやや遅れ、酸の強い果実がみられるが、これは中間台木の影響ではなくこの樹のある地勢が関係するように観察した。収量も接替後8年で15貫、13年で35貫、25年で23貫であり概して普通温州の場合と同様に良い組合せである。但し苦土欠乏、マンガン欠乏は樹令の古いもの程多発している。

D組合せ 枳殻+紀州+普通温州

この事例107本中10、20、30、50年代について調査したが全般的に長命であり、高接後の年数も古く樹勢も強勢で果実の品質も良く収量も20～50貫、樹冠

*熊本県果樹試験場

の拡大もなされ接木後50年の樹高60年のものは樹高3.2m, 直径3.6m, 幹周90cm, 接木部85cmに及ぶものがあり接着部の癒合も良好である。但しMg, Mnの欠乏症が老木程甚しく接替年次の若いものには一般に少い。紀州(小みかん)が主産地に古くから栽培せられ、隔年結果性強く貯蔵性に乏しく、採取に手間を要するなど経済的でない点と温州みかんの発展によつて古くから接ぎ替えられたため今後の接替対象としては漸減の傾向にあるが、砧木としての利用は考えてもよいのではなからうか。

E組合せ 枳殻+ネーブルオレンジ+早生温州この例445本中どの例をみても接替後数年は成績がよく、その後の樹勢の弱화가甚しく事例としては面白くない、砧木負は僅かにある程度で癒合も最も良いが、樹勢は中程度であり収量は7~15貫、品質は良好であるが苦土欠乏症が甚だ多く、これ等の原因か又は結果過多による弊害をも含まれた弱性と思われるが、普通温州の場合と比べて樹勢に相当の開きがあるので、今後接替対象となることは少くなつてはいるが、他の良組合せで行うべきであらう。

F組合せ 枳殻+ネーブルオレンジ+普通温州この組合せ63本中10年、20年の代表樹を調べた結果、砧木負は僅かにある程度で接着部の癒合も良く、樹勢も強勢であり、1本当り収量も13~30貫程度はあり品質も良好である。但し苦土欠乏症が僅かに見られるのでこれが治癒を行えば樹勢も品質も更に向上する筈である。他のネーブル中間砧木の組合せ例中ではこの例が良好であり普及するべきであらう。

その他の中間砧木について

枳殻+金柑子+ネーブルオレンジ この例は比較的少いが接着部の癒合は良く、砧木負もなくネーブルの結果良好で果実の品質も玉揃も良好、収量は20貫程度で優良事例である。

枳殻+金柑子+夏橙 この例は少いが樹勢強く、接着部の癒合も良好で砧負なし、収量は20貫内外で玉揃、品質良く、Mg欠乏症も少い好事例である。

枳殻+金柑子+宮川早生 樹勢は極強く、接着部の癒合は良いが砧木負(C+1)程度であり、品質は良好で玉揃も良い。Mg欠乏は軽微で収量は接替後9年で25~30貫程度で優良事例である。

枳殻+金柑子+普通温州 砧木負僅かにあり、接着部の癒合良く、樹勢極強、収量も接替後8年のもので25貫程度あり品質良好である。

枳殻殻+紀州+鶴久森ネーブル 枳殻+ネーブル+鶴久森ネーブルの例より更に樹勢が強いようである。その他は同様であり、品質はワシントンより劣るが、熟期は15日位早い。

枳殻+紀州+ワシントンネーブル この例は5本で、接着部の癒合は最も良く、砧木負もなく樹勢強く、品質、熟期は普通、欠乏症はなく良い例である。

枳殻+紀州+トロベタオレンジ 接着部の癒合は良く、砧負はないが、樹勢がやや劣り収量は1枝5貫程度である。果実は普通の大きさであるが甘味の高いことが特徴で16%もある。

枳殻+夏橙+温州 接着部の癒合は良く、砧負なく、樹勢は中、品質はやや劣る、概して中等の組合せである。